

GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学物質を製造する企業の社会的責務として、化学産業界のグローバル製品戦略（Global Product Strategy :GPS）に基づいて当社が製造する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(REACH CSR)などのリスク評価書に代わる文書として作成されたものではありません。記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

物質名（SUBSTANCE NAME）

テレフタル酸（Terephthalic acid, CAS No. 100-21-0）

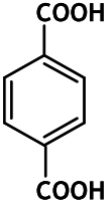
物質の概要（GENERAL STATEMENT）

テレフタル酸は、白色の固体である。ペットボトルや衣料及びポリエステルフィルムに使用されているポリエチレンテレフタレート（PET）の原料として工業的に重要である。

眼刺激、単回ばく露による呼吸器への刺激のおそれ、長期または反復ばく露による臓器（呼吸器）の障害がある。生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

製造時のサンプリング等では適切な保護マスク、保護手袋の着用が推奨される。また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

化学的特性（CHEMICAL IDENTITY）

項目	内容
一般名	テレフタル酸
商品名	高純度テレフタル酸
化学名	Terephthalic acid（IUPAC名:Terephthalic acid）
CAS番号	100-21-0
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法)(3)-1334 EC番号 202-830-0
分子式	$C_8H_6O_4$
構造式	
その他の情報 出典、備考	特になし

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途 合成繊維(ポリエステル)原料、PETボトル用樹脂原料、塗料、コーティング剤、印刷用インキ、接着剤材料 等

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

白色の固体である。

外観(物理的状态)	固体
色	白色
臭気	情報なし
比重(相対密度)	1.51
融点/沸点	情報なし/300℃
可燃性/引火性	情報なし
引火点	260℃
燃焼または 爆発上下限界	情報なし
自己発火温度	496℃
蒸気圧	1 Pa未満 20℃
分子量	166.13
水溶解性	15 mg/L 20℃
オクターロー水分配係数	LogKow : 2
出典・備考	可燃性の結晶または粉末で、特に空気中に粉末となって分散すると静電気などによって粉塵爆発を起こすことがある。 最小着火エネルギー 20 mJ、爆発下限界 50 g/m ³ 。 三菱ケミカル(株)発行のSDS9項参照

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

飲み込みと有害、眼刺激、単回ばく露による呼吸器への刺激のおそれ、長期または反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害および臓器(膀胱)の障害のおそれがある。

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	区分外 ^{*4}
急性毒性(吸入-気体)	分類対象外 ^{*2}
(吸入-蒸気)	分類できない ^{*3}
(吸入-粉塵/ミスト)	分類できない
急性毒性(経皮)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷 性/刺激性	眼刺激(区分 2B)
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない

生殖毒性	分類できない
特定標的臓器 (単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ(区分 3(気道刺激性))
特定標的臓器 (反復ばく露)	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器)の障害(区分 1(呼吸器))
吸引性呼吸器有害性 出典・備考	分類できない <small>*1 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。 *2 分類対象外: GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの。 *3 分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合。 *4 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合。</small>

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

影響評価	結果(GHS危険有害性分類)
水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(慢性)	区分外
出典・備考	三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項参照

環境運命・動態	結果
環境中の移行性	水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も高くないと考えられる。
生分解性	分解性の良好な物質(通産省公報(1975))
生物蓄積性	生物蓄積性は低いと推定される。
PBT/vPvBの結論	PBT*、vPvB**に該当しない。 <small>*PBT: Persistent, bioaccumulative and toxic (環境中に残留性し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する) **vPvB: very Persistent and very Bioaccumulative(環境中に非常に残留性しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する)</small>
出典・備考	三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項参照

ばく露 (EXPOSURE)

消費者用途はないため、作業ばく露、環境ばく露が主体となる。

詳細	No.	当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路)
作業ばく露	1-1	主にサンプリング作業時や移し変え作業時(吸入や皮膚・眼との接触)。但し、当該物質は閉鎖系プロセスで製造されるので、作業へのばく露の可能性は極めて低い。
消費者ばく露	2-1	消費者用途はないため消費者へのばく露の可能性は極めて低い。
環境ばく露	3-1	主にサンプリング作業時や移し変え作業時。但し、当該物質は閉鎖系プロセスで製造されるので、環境への放出の可能性は極めて低い。また当該物質は常温及び常圧で固体であり、環境へ

注意事項 放出された場合は水系中に分配されると考えられるが、水系中では比較的速やかに分解することが予想される。
他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください。

推奨するリスク管理措置（RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS）

吸入や皮膚、目への接触による健康への影響を最小化するために、サンプリング作業時などの際は、吸入経路や経皮経路でのばく露を防止することが必要である。そのために、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋の着用が推奨される。

また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業者ばく露	1-1	サンプリング作業時などの際は、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋を着用する。また、当該物質については、ACGIH(米国産業衛生専門家会議)により、作業環境許容濃度の勧告値として、10mg/m ³ (TWA－時間加重平均値)が公表されており、製造・使用場所においては、この勧告値を下回る環境濃度となるよう管理・制御する。 作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をする。
対消費者ばく露	2-1	なし
対環境ばく露	3-1	排ガス・排水処理設備を設置し、漏洩などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので、漏洩防止などの対策を講じるとともに、日常管理、取り扱いに注意を払う。
その他取扱注意事項		なし

注意事項

(注)No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している。

政府機関のレビュー状況（STATE AGENCY REVIEW）

評価書	レビュー状況
OECD HPV	http://www.chem.unep.ch/irptc/sids/OECDSEIDS/100-21-0.pdf
NITE 化学物質の初期リスク評価書	http://www.safe.nite.go.jp/risk/files/pdf_hyoukasyo/205riskdoc.pdf
環境省 化学物質の環境リスク初期評価	http://www.env.go.jp/chemi/report/h16-01/pdf/chap01/02_2_14.pdf
REACH	http://apps.echa.europa.eu/registered/registered-sub.aspx

法規制情報／ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION / LABELLING INFORMATION)

主な法規制情報

法律	規制状況
国連分類	非該当
国連番号	非該当
化学物質審査規制法 労働安全衛生法	優先評価化学物質 表示義務対象物質(法56, 57条) 文書交付義務対象物質(法57条の2)
化学物質排出管理促進法	第一種指定化学物質(特定第一種指定化学物質を除く)

ラベル情報

絵表示またはシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険

- ・ 眼刺激
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(呼吸器)の障害

注意書き

[安全対策]

- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取り扱い後は手をよく洗うこと。
- ・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

[応急措置]

- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ 気分が悪い時は、医師／手当てを受けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合: 医師の診断／手当てを受けること。

[保管]

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・ 施錠して保管すること。

[廃棄]

- ・ 内容物／容器は、国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	三菱ケミカル株式会社
住所	東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
担当部門・担当者	テレフタル酸事業部
電話番号/FAX番号	03-6748-7179/03-3286-1278

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2017年 4月26日発行
特記事項: 2018年12月27日 第二版発行